

平成 20 年 11 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社 泉 州 銀 行
代 表 者 名 取締役頭取 吉 田 憲 正
コ ー ド 番 号 8 3 7 2 (大証第一部)
本 店 所 在 地 岸和田市宮本町 26 番 15 号
問 合 せ 先 常務執行役員経営企画部長
坂 戸 豊
(TEL. 072-423-7441)

平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間末の有価証券の評価損及び含み損に関するお知らせ

1. 有価証券の評価損

当行では、「満期保有目的の債券」及び「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、簿価に比べ時価あるいは実質価額が著しく下落した有価証券につきましては、減損処理（有価証券評価損の計上）を行っております。

この度、平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間末における有価証券評価損（減損処理額）を算出いたしました結果、その総額が下記のとおりとなりましたのでお知らせいたします。

(A) 有価証券評価損（減損処理額）の総額	692 百万円
(B) 平成 20 年 3 月期の純資産の額 (A/B×100)	90,494 百万円 (0.7%)
(C) 平成 20 年 3 月期の経常利益額 (A/C×100)	2,512 百万円 (27.5%)
(D) 平成 20 年 3 月期の当期純利益額 (A/D×100)	2,245 百万円 (30.8%)

(ご参考)

- 1 当行の第 2 四半期決算期末は、9 月 30 日であります。
- 2 当行の減損処理基準の概要は、以下のとおりであります。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先の場合	時価が取得原価を下回っている場合
要注意先の場合	時価が取得原価を 30%以上下回っている場合
正常先の場合	時価が取得原価を 50%以上下回っている場合
- 3 上記処理後の「その他有価証券」のうち時価のあるものの評価差額は△8,720 百万円であります。

2. 有価証券の含み損

当行の保有する「満期保有目的の債券」及び「関連会社株式」のうち、時価を合理的に算定できるものについて、平成21年3月期第2四半期累計期間末における有価証券の含み損を算出した結果、その総額が下記のとおりになりましたのでお知らせいたします。

(A) 有価証券含み損の総額	3,923 百万円
(B) 平成20年3月期の経常利益額 (A/B×100)	2,512 百万円 (156.1%)
(C) 平成20年3月期の当期純利益額 (A/C×100)	2,245 百万円 (174.7%)

(注) 1 「満期保有目的の債券」及び「関連会社株式」のうち、時価を合理的に算定できるものの全てを対象としています。

2 対象有価証券の帳簿価額 41,961 百万円
時 価 38,038 百万円

(ご参考)

- 1 当行の第2四半期決算期末は、9月30日であります。
- 2 平成21年3月期第2四半期累計期間末における有価証券の含み益及び差引き含み益は以下のとおりであります。

(D) 有価証券含み益の総額	215 百万円
(E) 有価証券差引き含み益の総額 (D-A)	△3,708 百万円

- 3 平成21年3月期第2四半期累計期間末における満期保有目的の債券に係る含み損益の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	帳簿価額	時価	含み損益	うち益	うち損
国債	54,623	52,472	△2,150	209	2,360
その他	16,000	14,442	△1,557	5	1,563
合計	70,623	66,915	△3,708	215	3,923

(注) 「その他有価証券」のうち時価のあるものの評価差額及び「満期保有目的の債券」に係る含み損益は、平成20年10月28日に企業会計基準委員会より公表された「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(企業会計基準委員会実務対応報告第25号)を踏まえて、変動する可能性があります。

以 上